

2020年4月19日（日） 復活節第2主日 銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞

「眠りにについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。
そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」

(エフェソの信徒への手紙5章14節)

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。
み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を今日も与えたまえ。
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。 アーメン

讚美歌 151 よろずのたま よろこべや

聖書 ヨハネによる福音書3章14～16節

3:14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。
15 それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。 16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

牧会祈禱

天の父なる神さま。私たちは今、神さまの御前に立ち、主を仰ぎ祈る時を与えられ家庭礼拝をおささげする恵みをいただいています。いつものこの時間に教会員一同、心を合わせて祈る時を与えられていますことを感謝いたします。

礼拝堂に集まることを中断して2回目の日曜日を迎えました。今日の日まで、主にある兄弟姉妹の交わりを確かめながら一週間、復活の主と共に歩んでまいりました。復活の主が共に歩んでくださる恵みを深く味わいつつ、試練の時を過ごしてまいりました。すべてをご存じの主が最善の道を備えてくださることを信頼いたします。

今日も幼子からご高齢の方々まで、神さまの家族を顧みてくださいますようにお祈りいたします。家の中に留まることが何より大切な時です。不安の中にいる時も神さまを賛美する者としてください。今日も医療の最前線におられる方々が懸命に救命に努めておられます。心折れることなく支えられますようにお守りください。

本日も御言葉を聞きます。私たちの命の糧としてお導きください。
この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説 教

「人の子によって永遠の命を得る」

近藤 勝彦 牧師

復活節第二主日の礼拝を迎えました。ヨハネによる福音書によりますと、主イエスが十字架におかかりになった後、弟子たちは、自分たちも殺されるのではないかとユダヤ人たちを恐れ、家の中に閉じこもっていました。八日の後、そこには主の復活を信じるのでできなかったトマスもおりましたが、復活の主イエスは彼に現われ、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」（ヨハネによる福音書20章27節）とおっしゃられたと言います。そして聖書は、「信じる者は命を得る」と伝えます。私たちも、新型コロナの感染拡大の中で、命の大切さを感じながら、家に閉じこもるようにして復活節第二主日を迎えています。今朝は、聖書の語る「主イエスを信じることによって命を得る」というメッセージを受け取りたいと思います。

主イエスを信じることによって命を得るのは、主イエスが復活の主でいらっしゃるからです。また復活の主イエスが十字架におかかりになり、私たちのために罪の結果である死を引き受けてくださったからでもあります。わたしたちのために十字架にかかれた主イエスの復活を信じ、復活の主が今日も私たちのために十字架を負ってくださっていることを信じる。それが私たちを永遠の命に生かします。

ヨハネによる福音書は、主イエス・キリストの十字架を「上げられる」と表現しました。今、試練の中にある私たちに対し、主イエスは十字架に上げられ、復活した方として、私たちを訪れ、私たちの中心に立ってくださいます。この上げられた主イエスを、ヨハネによる福音書は「モーセが荒れ野で蛇を上げられたように、人の子も上げられねばならない」と記しました。「人の子」である主イエスは、モーセが荒れ野で高く上げた「蛇」のように十字架に高く上げられ、そして甦られました。それは「信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」と言うのです。

「モーセが荒れ野で蛇を上げた」とは、どういうことでしょうか。それは民数記に記されているエピソードから来ています。それによりますと、エジプトの圧迫の中から救い出されたイスラエルの民は、荒れ野を導かれながら、しばしば神の恵みに不満を抱いたというのです。「なぜ我々をエジプトから導き上ったのか」という声が、荒れ野の40年の折りごとに民の心に沸きました。そして不平が口にされました。エジプトにいた方がよかったというつぶやきです。今のこの惨めな状態を見てもらいたい。神を信じて何になる、という反抗がその言葉に透けて見えます。神をあなどると言ってもよいでしょう。救いの恵みを忘れた状態です。私たち自身にもそういう姿はないでしょうか。そのとき、主なる神は「炎の蛇」を民に向かって送り、蛇は民をかみ、イスラエルの民の中から多くの死者が出た

と記されています。荒れ野を旅する中でのこのエピソードは、民数記21章に記されています。蛇はあたかもウイルスの感染拡大のように民の中に死の恐怖を与えました。人々はモーセに向かって、主への執り成しを求め、蛇を取り除いてくれるように求めました。「民はモーセのもとに来て、言った。『わたしたちは主とあなたを非難して、罪を犯しました。主に祈って、わたしたちから蛇を取り除いてください』」。そのとき、主なる神は民のために祈るモーセに答えて言われたというのです。「あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る」（民数記21章8節）。モーセはそこで、青銅で「炎のような蛇」を造り、それを旗竿の先に掲げました。すると「蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た」と聖書は伝えます。

話は何か迷信的、魔術的な話に見えて、聖書の出来事というよりは古代の呪術的宗教の話のように思われます。しかしイスラエルの民が、この話から自分たちが救いにあずかりながら、いかに感謝を忘れた忘恩の民であることを示されたことは明らかです。そしてそれにもかかわらず、主なる神がどんなときにも民の救助のために備えてくださっていることを知らされたことも明らかです。神は民の犯した罪を赦しただけでなく、その罪の結果生じた禍からも、解き放ってくださいました。私たちが、与えられた人生に不満を感じ、神に不平を言うとき、感謝を忘れて神をあなどるとき、それにもかかわらず、神は救いを与える神でいらし、癒しを行う神でいらっしゃる。神の恵みの御意志に信頼することができますし、信頼しなければなりません。神の恵みの御意志に信頼すると共に感謝し、それによって満ち足りる信仰が求められています。あなたは神の救いに感謝しているか、恵みに満ち足りているか、荒れ野の蛇の物語はそう問うています。

この物語が、ヨハネによる福音書のメッセージの背後にありました。十字架にキリストが上げられ、復活なされたのは、「主を信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るため」です。「永遠の命を得る」というのは、罪の赦しにあずかることですが、さらに罪の結果である死の禍から解き放たれ、そして恵みの命にあずかることです。そのようにして主を信じる者が永遠の命を得る。そのために主イエスは十字架に上げられ、そして復活なされたのです。そこに主イエス・キリストの愛が示されると共に、御子を十字架に渡された父なる神の愛が示されています。「神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。それは、独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るため」と聖書が言うとおりです。キリスト教信仰はイエス・キリストによる命の信仰です。信じる者は神の愛によって永遠の命を得るからです。

主イエスは復活された方として、あの日、弟子たちを訪れました。同じ様に、今日、私たちが訪れてくださいます。そして主を復活させた神の霊、命の霊を注いでくださいます。私たちが今日も父なる神を信じ、「父よ」と祈るのは、命の霊である聖霊を注がれているからです。こうして神の独り子である主イエス・キリストを信じる者は、父である神と御子キリストとの愛の交わりの中に、聖霊によって入れられています。そこに永遠の命があります。神の愛の交わりは命の交わりです。あなたは、それを感謝していますか。その恵みでは足りないと感じなく不平を言うのが不信仰で、感謝して恵みの深さに生きるのが信仰です。

今年の復活節は、新型コロナウイルスの感染拡大の中で過ごされています。全人類が死の不安の中にいます。その中であって、私たちのために十字架にかかれた主イエス・キリストは、復活された方として、家に閉じこもっている私たちのもとに来られ、私たちの中心に立ってくださいます。死の囲みの中で、私たちは人の子を仰ぎます。「蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た」と旧約聖書は伝え、人の子が上げられたのは「信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」とヨハネによる福音書は語ります。復活された十字架の主イエス・キリストを仰ぎ信じること、それが今、なすべきことでしょう。主を信じる者は、永遠の命を得るからです。主を信じて、神の愛の交わりに加えられるとき、神の永遠の命にあずかります。人の子によって永遠の命を得る。それを感謝するのが、復活信仰です。お祈りいたしましょう。

〔祈祷〕 天の父なる神様、御子イエス・キリストの復活を覚え、今日の礼拝を感謝いたします。私たちのために十字架にかかれた主イエスが、復活の主として今日私たちを訪れ、私たちの真ん中に立ってくださいますことを感謝します。あなたと御子の愛の交わりにあずかり、永遠の命に生きる幸いを感謝します。主の体である教会が、世界各地にあってあなたの御栄光のために仕えることができますように導いてください。新型コロナと戦っている医師たち、各地域の指導者たちの上に、あなたの憐みと導きを与えてください。銀座教会の兄弟姉妹が今日も主にあって、一つの霊で結ばれ、一つの信仰に生きることができますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

祈 禱（各自、自由にお祈りください）

祈禱課題 病の中で苦しむ方々、医療従事者のために
進級進学する子どもたちのために
先に召された私たちの家族のために
世界の教会が復活の主とともに歩み、賛美の心を保てますように

讃美歌 301 山べにむかいてわれ目をあぐ 助けはいずかたよりきたるか
あめつちのみかみより たすけぞわれにきたる

頌 栄 544

祝 禱

安心して行きなさい。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。

アーメン